

6 月議会定例会のあらまし

平成24年6月内子町議会定例会は、6月21～27日まで7日間の会期で開かれました。34の町長提出案件(報告事項1件、条例の制定・改正10件、補正予算6件、指定管理者の指定6件、諮問案件1件、その他10件)が審議され、全て原案どおり可決されました。

行政報告

内子町長 稲本 隆壽

■23年度の各会計の執行状況

(1) 一般会計

- ・歳入総額 112億528万2229円
- ・歳出総額 106億7103万5506円
- ・収支残額 5億3424万6723円

このうち23年度の繰越明許費にかかる一般財源所要額で、町有林管理費他15事業・2億3863万7000円が繰り越すべき財源として必要のため、これらを差し引いた実質収支は2億9560万9723円となる見込みです。

第2期行政改革を推進しながら効率の良い行政運営を行



新規路線運行が始まるデマンドバス

これに続き白杵、上川、立石各方面の町営バス路線もデマンドバスに移行し、週2日・1日3便の運行を計画中です。乗車時間を短くするため、現在の白杵線を「白杵・上田渡線」「中田渡・吉野川線」に、上川線を「上川線」「中川・本川線」に分割(立石線はそのまま1路線)。済生会小田診療所の受診状況や役場本庁、小田支所を結ぶ基幹路線との連携を踏まえて運行内容を決定します。

これまで、運行曜日や時間などについて地元の人々と協議を行ってきました。今後、愛媛運輸支局の認可を得て利用者への説明会を開き、8月から無料試験運行、9月から有料運行を行う予定です。

内子町総合計画プロジェクト10の推進に努めます。

(2) 主な特別会計の収支残額

- ・国民健康保険特別会計 2億8523万6000円
- ・後期高齢者医療保険特別会計 585万6000円
- ・介護保険特別会計 4407万9000円
- ・簡易水道事業特別会計 4189万4000円

■県と市町の連携強化

県と市町の連携・一体化を強化するため、23年度から県と市町にそれぞれ担当職員が配置されました。これを受けて4月27日、両担当職員による規模高齢化集落対策連絡会を開き、現状と課題などへの共通理解を深めました。

また5月10日には中村時広愛

この他、野村、上成の両地区では福祉バスを運行しており、小田地区はほぼ全域で交通網を整備することができました。

また内子地区では、福祉バスの北深線、大久保線、長田線で、乗客の利便を図るためJR内子駅から加戸病院まで路線を延長します。

町内全域の交通網についても順に整備を進めていきます。

■商店街の活性化

近年、商店街を取り巻く環境は非常に厳しい状況となっております。この中で、内子まちづくり商店街協同組合は商店街の活性化を図るため、「うち来んかい笑顔満開ハートフル商店街」活性化事業を行います。事業期間は24～26年度の3年間です。

同事業は、商店街が町民や観光客にとつて、安心・安全でゆつくりと楽しめる憩いの交流空間としての存在意義を確立することを目標としています。

ハード事業として、旧内子町商工会館を改築して「まちの駅なんぜ」を整備し、観光客向けカフェや特産品売り場、特産品開発を目的とした調理工房などを設置します。また外構工事と

媛県知事を招き、講演会を開きました。

県、市町との情報共有を図り、連携してまちづくりに取り組んでいきます。

■四国西南サミットと環境自治体会議で災害時支援協定を締結

愛媛、高知両県の四国西南地域14市町村が加盟する四国西南サミットが5月21日、八幡浜市で開かれました。内子町も同日付で加入し、地震などの大規模災害に備えて相互支援協定を結びました。西南地域との広域連携により、地域が抱えるさまざまな問題に共に取り組みたいと思います。

環境に優しいまちづくりに取り組む全国の自治体などが加盟する環境自治体会議が5月25～27日、福井県勝山市で開かれ、

して、駐車場などの整備、空き家を活用した「チャレンジショップ」の建設、スタンプカード化事業、街路灯のLED化などを計画しています。

ソフト事業として、白壁影絵アートなどの新規イベントの展開、商品開発や情報発信による販売促進事業などを計画しています。

商店街の活性化は町にとって大きな課題です。まちづくり支援制度を設け、民間主体のまちづくりが展開しやすい環境を整えることで、地域の力やにぎわいが増し、魅力的なまちづくりにつながるよう、取り組みを応援していきます。

■愛媛マンダリンパイレーツうちこ後援会を結成

愛媛マンダリンパイレーツは、地域密着をねらいとして22年からは愛媛県をはじめ県内市町などから出資を募り、県民球団として再編されました。

内子町は22年から毎年、城の台公園多目的グラウンドで同球団の公式戦を開催。この試合観戦に訪れた薬師神績球団社長に同公園体育館のトレーニング設備などを案内し、同施設での

内子町も参加しました。この中で、全国30の自治体と災害時の相互支援協定を採択。6月6日に開かれた全国市町村会の際に締結しました。主な内容は、大規模災害時の食糧や生活物資提供、ボランティア活動の呼びかけ、職員派遣、被災者への住宅あっせんなどです。

今後も防災対策を緊急課題として位置付け、取り組みを進めます。

■デマンドバス新規路線運行

町は22年11月から、小田地区の町営バス2路線を予約制デマンド運行方式に移行し、運行しています。町営バスと比べ運行日・運行回数は減っていますが、利用者からは「自宅近くで乗り降りでき、助かっている」との声が聞かれています。

キャンプをお願いしたところ、それが叶い、7月2～4日にかけて、前期と後期の公式戦の間を利用したミニ合宿が実施されることになりました。

これに先立ち、内子町文化交流センター「スバル」で4月17日、同球団のうちこ後援会発起人会を開催。賛同する企業・団体により同日、正式に「愛媛マンダリンパイレーツうちこ後援会」が発足しました。

うちこ後援会組織と連携を図りつつ、ミニ合宿への支援や、今年で3回目となる四国アイランドリーグ公式戦の開催などを通して、同球団を盛り上げていきたいと考えています。皆さんの応援をお願いします。



7月15日に城の台公園で行われた公式戦